



# プロトコール（国際儀礼）を知ろう

## プロトコール研究家・結びの伝道師 小暮 幹雄様

本日はプロトコール研究家として、卓話の機会をいただき大変ありがとうございます。

私はプロトコール研究家として、ロータリークラブやライオンズクラブ、倫理法人会などで講演活動を行っております。テレビ出演や、ロープワークに関する40冊以上の書籍出版もしてまいりました。経歴について、特筆すべきこととして、ボーイスカウト活動を通じて、今の上皇陛下（当時は浩宮殿下）とキャンプをご一緒させていただいた経験や、秋篠宮ご夫妻にロープワークをお教えしたこともございます。

「プロトコール」とは何でしょうか。一般的には「国際儀礼」と訳されます。外務省の定義によれば、「国家間の儀礼上のルールであり、外交を推進するための潤滑油」とされています。また、国際的な場で主催者側が示すルールを指すこともあります。プロトコールは、エチケットやマナーよりも上位に位置づけられる、最も公式性の高いルールです。

このプロトコールには、5つの基本原則があります。

第一に「序列（席次）」

国際関係において、誰がどの席に着くかは極めて重要です。

第二に「答礼（相互主義）」

何かを受けたら、必ず返礼をします。

第三に「右上位」

ステージに向かって左側が上位となります。オリンピックの表彰台を思い浮かべると分かりやすいでしょう。

第四に「異文化の尊重」

各国の歴史、文化、慣習を尊重します。

第五に「レディーファースト」

これは日本人が最も苦手とするところかもしれません。

次に、国賓の接遇についてお話しします。

国賓とは、天皇陛下がお迎えするお客様のことで、原則として一年に二カ国に限定されます。国家予算の都合もあり、一度国賓として来日された方は、二度目以降は公賓という扱いになります。

国賓の歓迎行事は、まず皇居・東御苑での歓迎式典から始まります。陸上自衛隊の特別儀仗隊が整列し、国賓の国の国歌が先に、続いて日本の「君が代」が演奏されます。その後、天皇陛下が国賓をレッドカーペットへと導き、儀仗隊による栄誉礼がおこなわれます。ちなみに、この儀仗隊の制服は、デザイナーのコシノジュンコ氏が手がけたものです。

宮中では、両陛下がお迎えになり、記念撮影とご歓談の時間が持たれます。夜には、皇居で最も大きな「豊明殿」で宮中晩餐会が催されます。男性は燕尾服、女性はローブ・デコルタントという正装で臨みます。

最近では、従来主流だったフランス料理に代わり、日本のおもてなしが取り入れられています。例えば、食事には箸が用意され、乾杯は日本酒で行われるなど、日本の文化を尊重する姿勢が見られます。

国賓は数日間の滞在の後、天皇陛下からお別れの挨拶を受け、帰国の途につきます。かつては、招待された国賓側が返礼として「リターンバンケット」という晩餐会を都内のホテルで催すのが慣例でしたが、近年

は日程の都合などから省略されることが多くなっています。

国際的な移動の際には「政府専用機」が使用されません。現在の機体はボーイング 777-300ER で、2機保有されています。乗務員はすべて自衛官で、客室乗務員役の女性自衛官は ANA で接遇マナーの研修を受けています。随行する記者団も同乗しますが、運賃は無料ではなく、一般の航空運賃に相当する料金を支払っています。

海外での儀礼も興味深いものです。天皇陛下が英国を訪問された際には、バッキンガム宮殿へと続く「ザ・マル」と呼ばれる並木道に、日章旗と英国国旗が交互に掲げられました。この時、チャールズ国王はシルクハットを着用されていましたが、天皇陛下は無帽でした。本来であれば宮内庁がシルクハットを用意すべきだったのではないかと、個人的には少し残念に思った点です。

また、敬意の証として「礼砲」が撃たれます。最高位の君主や大統領に対しては 21 発、首相には 19 発と、役職によって数が定められており、全て奇数です。通常 5 秒に 1 発の間隔で発射されます。天皇陛下が英国を訪問された際には、特例中の特例として 41 発の礼砲が捧げられました。

ここで「君が代」について触れますと、日本の国歌として法律で正式に制定されたのは、意外にも新しく 1999 年のことです。それまでは慣習として歌われていました。

国際的な場では、握手や挨拶の仕方にもマナーがあります。男女間の握手は、必ず女性から手を差し伸べるのがルールです。男性は、女性の 4 本の指を軽く握るようにします。また、女性が目上の方に敬意を表す際には、「カーテシー」という、片足を引いて軽く膝を曲げる挨拶をします。ダイアナ元妃が天皇陛下にされた挨拶がその一例です。

国際会議やサミットでの記念撮影における席次にも、厳格なルールが存在します。中央に立つのは議長国の首脳です。そして、その両隣には、それぞれの役職に「着任した順番」が古い順に、左右交互に並んでいきます。年齢や国の大きさ、アルファベット順ではないのです。

国旗の掲揚方法も重要です。例えば、星条旗を縦に掲揚する際は、星の描かれた「カントン」と呼ばれる部分が必ず左上にくるのが正しい形です。時に、東京都議会のように、このルールが守られていない場面も見受けられます。

最後に、パーティーでのマナーについて一言。先日、あるパーティーに出席した際、腕を組んだり、ポケットに手を入れたりしている男性が多く見受けられました。これは決して美しい姿勢ではありません。ロータリアンの皆様は、そのようなことのないよう、常に品位ある立ち居振る舞いを心がけていただければと存じます。本日はご清聴いただき、誠にありがとうございました。